

平成 24 年度 第 1 回高知県産業振興計画フォローアップ委員会 議事概要

◇日時：平成 24 年 9 月 14 日（金） 13：30～16：30

◇場所：高知サンライズホテル「向陽」

◇出席：委員 25 名中、15 名が出席

◇議事：（1）第 1 期計画の総括について

（2）第 2 期計画の取り組み状況等について

①平成 24 年度上半期の進捗状況、第 2 期計画のバージョンアップのポイント【産業成長戦略】

②平成 24 年度上半期の進捗状況、今年度の追加・削除等【地域アクションプラン】

（3）高知県経済等の動向及び第 2 期計画で今後挑戦する新たなテーマについて

（4）さらなる飛躍へのポイントの検討状況について

（5）その他

1 開会

2 委員紹介

3 知事あいさつ

この度、産業振興計画フォローアップ委員会の委員をお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。心から感謝を申し上げます。今日、初めて委員に就任いただいた皆様もいらっしゃいます。心から感謝を申し上げたいと思います。

この 4 月から、第 2 期産業振興計画の取り組みを進めてまいったところでございます。今までの取り組みをより大きな動きにしていくことが第 1 の柱。新しい産業づくりに挑戦していくこと、特に、ものづくり産業の強化を図る取り組みを進めていくことが第 2 の柱。そして、3 番目の柱といたしましては、取り組みの土台を広げていく、より多くの皆様に参加をしていただけるように取り組んできたわけであります。

関連して中山間対策や産業人材の育成の取り組みを大いに強化し、この間、庁内の産業振興推進本部で進捗状況も確認してまいりました。概ね何とか第 2 期計画の新しい取り組みについて、その態勢が整い新しく始動し始めたのではないかという状況でございます。

本日のフォローアップ委員会におきまして、この第 2 期計画の進捗状況について、皆様方にぜひいろいろとご確認をいただき、ご指導、ご鞭撻をいただきますとともに、今後につきまして、いろいろな形で忌憚のないご意見をいただければと思っています。

今日は、最初に 21 年、22 年、23 年度と 3 年度間、実行してきた第 1 期計画の総括をさせていただきますが、いろいろと成果が上がったと思われる点もあれば、取り組んできたが故に見えてきた課題もたくさんあるわけでございます。これらを踏まえて第 2 期計画に反映し、今後さらにパワーアップすべき点も新たに出てきていると思っています。そして、経済状況の最近の動向についても、ご説明させていただきますが、これらを踏まえ、今後に生かさせていただければと思います。

本当に、委員をお引き受けいただきまして心から感謝を申し上げます。我々、引き続き県勢浮揚に向けまして、必死になってこの計画の取り組みを進めてまいりたいと考えておりますので、今日のご議論、どうぞよろしくお願いいたします。

4 委員長・副委員長選出

- * 委員長に、国立大学法人高知大学副学長の受田浩之氏を選出。副委員長に、高知県商工会議所連合会会頭の西山昌男氏と高知県市長会長（高知市長）の岡崎誠也氏の2人を選出

5 議事

議事（1）～（4）について、県及び部会長から説明し、意見交換を行った（主な意見は以下のとおり）。議事については、すべて了承された。

（1）第1期計画の総括について

《【資料1】を産業振興推進部長から説明》

※意見交換概要（以下意見交換部分は常体で記載）

（A委員）

- ・ 地域アクションプランにより623名の雇用が創出されたとあるが、地域アクションプラン以外の産業振興計画全体の雇用創出がどのくらいになっているのか。多分、ふるさと雇用基金のような直接雇用の部分と、波及として雇用につながった部分の両方があると思うが、どのような割合になっているのかお聞きしたい。第2期計画の最終の目標として社会減を食い止めることがあるので、やはり雇用にどうつながるのか、直接雇用だけではなく波及が大事と思う。
- ・ これも一例の質問だが、木質バイオマスの導入台数が21台から144台と非常に伸びている。他県はどのくらい普及が進んでいるのか。PDCAサイクルが回ってきて素晴らしいと思うが、いろんな地域で活性化の動きがあり、相対的にどうなのかをチェックすることが必要。地域の特性をどう生かしていくかという観点から、全国的な動きの中で高知の良さを見いだしていくことが重要。そういう意味でもいろんな数値の全国的な位置付けをチェックしながら進む必要があると思う。

（尾崎知事）

- ・ 地域アクションプランによる雇用の創出623人は直接効果そのもの。ただし、よく留意しないといけないのは、ふるさと雇用基金等を使っているため、これがそのまま事業として継続し雇用数が維持でき、もっと拡大していけるかが、今後の主題になってくると思う。
- ・ 全体的な雇用の創出数は把握できていない。例えば、観光で435万人が来県し1,010億円の消費拡大効果があったことで、雇用創出の効果を把握することは、正直なところ極めて困難。ただ、それゆえに、後でお伝えする高知県の経済状況で有効求人数、有効求職者数の推移等を確認していくことにしている。今、有効求人倍率は0.63倍と平成3年以来の高水準であり、産振計画に取り組む中で、一定、雇用拡大の傾向は見えるのではないかと。ただ、所詮0.63倍であり、やはりここはもう一段のパワーアップが必要

と思っている。

- ・ 2番目のバイオの話。ご指摘のとおり、独りよがりになってもいけないので、他県との比較という視点は当然、持っておく必要がある。今後、いろいろ評価する時に、そういう視点を資料の中に入れていくように努めたい。個別の話だが、ボイラーの144台という数は、他県と比べてもかなり多いようだ。ご指摘の新エネルギーの動きになると、まだ少し、他県のメガソーラー等の動きに比べると遅れをとっているように見えるかもしれない。一つ申し上げたいのは、新エネルギー産業の育成は、いかに地元にお金を落とすかだと思う。県外の大資本がやっても、地元に着るお金というのは所詮、固定資産税にすぎない。装置のメンテナンスもほとんどないので地元にお金が落ちない。そうではなくて、どうやって地元にお金を落とすことができるかを考えていきたい。新エネルギーの売電収入が地域で還元される仕組みをつるために、地域でどうやって運営主体等を立ち上げるかを研究させていただいている。できればこの委員会に間に合わせたかったが、いろいろ試行錯誤しており、次回は発表させていただければと思っている。昨日新聞にも出た公営企業局の(小水力発電)事業は県の直営であり、地元を落とす一番簡単なやり方だが、土佐町とタイアップして、地元の集落活動センター等にも実益が及ぶようにしたい。

(B委員)

- ・ 2ページの業況判断D. I. について、これはある意味、マクロ的には非常に良い指標と思う。これまで全国に比べて高知だけは1人取り残されている感じだったが、非常に素晴らしい状況になってきたと思う。これをもっといい数値にしていく必要が当然あると思うが、産業振興計画と非常に同期している。若干ディレイ(遅れ)があってもいいものだが、即座に回答していることをどのように解釈すればいいのか。

(尾崎知事)

- ・ 多分、観光が要因。高速の千円効果と「龍馬伝」効果があり、我々は非常にラッキーだったと思う。産振計画を立ち上げるスタート時に、観光がググッと最初に立ち上がってくれた。当時、観光をリーディングプロジェクトと盛んに言ってきたが、立ち上げの一番苦しい時、まだローギアで力が要る時に「龍馬伝」があったことは、非常に大きかったと思う。(龍馬伝は平成22年だが)少なくとも「龍馬伝」があることは事前に分かっていた。

(C委員)

- ・ 12ページにある4段階評価(S、A、B、C)の結果は、パレートの法則でいえば、420ぐらいあれば、このうち大体20%ぐらいは下位のBCが現れるのではないかと思う。Cの2件が対策による成果のほとんど見られなかったものであれば、どうして成果が見られなかったという判断をしたのか今後のところも含めてお聞きしたい。

(尾崎知事)

- ・ Bの評価は、「課題の解決につながる成果が期待できるもの」であるので、まだ成果が出てないが今後につながり得るきざしがあった程度のもので、決してよい評価ではないと思っている。一言でいうと、このSABCは所詮アウトプットの評価とさせていただきたい。アウトカムの評価は、率

直に言ってまだパワー不足だと我々は評価している。「まだ県勢浮揚を実感していただくまでの成果には至っていない、乗り越えるべき課題もある」と記載しているが、アウトカムに十分、つながっていないという点は率直に我々として受け止めている。

我々、行政としては決めたことをやらないことは基本的にはない。税金を使わせていただいております、県民の皆さまの代表である議会にも説明責任が果たせない。一生懸命、必死になって取り組んだ結果として、アウトプットがこういう形で出ている。しかし、アウトカムとして本当に県民生活の向上につながったかという点、一定の成果が出たものもあるが、まだまだパワー不足であると自己評価している。アウトカム目標で評価すれば、とてもこのような評価にはならないと思う。

(D委員)

- ・ 4 ページの「ものづくりの地産地消」の取り組みで、218 件の相談件数などがあげられている。これは非常に地道な活動になると思うが、まさにこういう取り組みが重要と思っている。私どもも四国外の大手企業と四国内の企業を結びつける取り組みを行っており、地道な活動ではあるが、こういうことをやらないと、なかなか実際のものが生れてこない。そういう意味では、実際、活動に携わられる方々は、なるべく良い人選をして、大いに活動していただくことが重要と思う。

(2) 第 2 期計画の取り組み状況等について

①平成 24 年度上半期の進捗状況、第 2 期計画のバージョンアップのポイント【産業成長戦略】

《【資料 2-1、2-2】を各部会長から説明》

※意見交換概要

(E委員)

- ・ 水産の分野について、今、水産は捕る水産から養殖へ、育てる漁業という方向に進んでおり、50%ぐらいが養殖という時代を迎えている。そういった意味では、マグロだけでなく、深層水を使ったナガレコやアワビも養殖しながら、また黒潮牧場などもつくりながら、育てる漁業に転換していければよいと感じた。
- ・ カツオが減っているという話をあちこちで聞く。私もインドネシアのスラバヤを視察した時、日本企業のシーチキン工場があり、何人かと一緒に工場見学に行った。インドネシアの海域でカツオがたくさん捕れている。マグロやカツオ、メジカも様々な魚種、大小様々な漁体をごっそり網で漁獲して、それをシーチキン工場に運び、安い労働力と 24 時間 3 交代で缶詰を作っている。
カツオ資源の問題は、高知へ回遊する前に遠くで漁獲するわけだから、国際的な法律も絡めて、いろんな方策を講じないと、高知に来る資源が涸渇するのではないかと感じた。
- ・ シンガポールでは、食品に対する期待が非常に高い。お酒の販売をしようとしても、新潟や山形が、相当活発に売り込みに来ている。カツオも静岡や他の競争相手がある。シンガポールではユズは競争力があり、健康にも良いと評価していた。北川村のユズの原液を冷凍にして輸出し、現地の水と味付けで販売したところ非常によく売れている。
こうした成功事例を他国に拡げていく、そういう努力も必要ではないか。
- ・ これから新しく食品加工分野で産学官が連携しようとするのだから、皆で知恵を出し合って、食品加工の付加価値を付けていくことが大事だと思う。

(東水産振興部長)

- ・ 養殖業について、本県ではブリ、マダイ、カンパチに加え、今後、宿毛湾でのマグロ養殖に力を入れていく。特に、これまでのブリ、カンパチ、マダイ等については、他産地との競合の問題などがあり、いかに生産コストを下げ、給餌方法を改善し、より質の高い養殖魚を提供する必要がある。例えば、直七等の柑橘系の果実を餌に加えることで、魚の病気予防や肉質を向上させる効果があることが、現在の研究で一定見出せている。そういう新たな養殖技術を開発し、漁業者に定着させる取り組みや、最も大事な健康で優良な種苗を確保するため、カンパチの人工種苗の開発に取り組んでおり、本県の養殖業の拡大に努めていきたいと考えている。
- ・ カツオの資源については、ご指摘のあった中太平洋等から北上してくる資源であり、わが国だけの対応は難しい。水産庁に要望させていただいているが、国はこれまでどちらかといえばカツオは引き続いて安定した状況にあるという認識であったが、一昨年知事から農水大臣に具体的な状況を説明し、水産庁もカツオ資源の確保が国の重大な責務であることを認識し、取り組みを進める方向で対応するという回答をいただいた。ただ、先ほどご指摘いただいたように、関係諸国においても、漁業に相当力を入れており、国際的な資源管理の合意形成ができる状況にはもう少し時間が要るようだ。国も積極的に取り組むということなので、私どもも県としてできる協力、資料の提供等を行っていききたい。

(杉本農業振興部長)

- ・ ユズの果汁については、EU、シンガポール、アメリカに40トン程度、輸出している。このうち、シンガポールは、地元でブレンドし地元の嗜好に合ったユズの使い方がされており、我々もそういった方向を目指し、一生懸命、努力してまいりたい。
- ・ もう一つ、EUに関して、ユズは加工品では他県が先行している部分がある。EUのシェフからは非常にユズ玉を欲しいという要望をいただいているものの、ミバエなど植物防疫の問題をクリアする必要がある。昨年11月に知事と上京し、植物防疫の問題は格段のご配慮をいただき、なるべく早く輸出できる体制を整えて欲しいと国に要望した。お陰様で何とか北川村のユズ玉を輸出できそうな体制が整い、先だっても新聞報道されたところ。我々は当然果汁も大事だが、EUのシェフから要望が多いユズ玉の輸出していきたい。また、この動きを今後は県下に広げていきたい。

(中澤産業振興推進部長)

- ・ 少し貿易面から補足すると、ユズは従来、加工したポン酢や飲料の輸出に取り組んできた。シンガポールの事例は原液を持ち込んで現地のメーカーが生産し、現地の味に合わせて流通させることが成功した事例である。成功したのは、商流物流をしっかりと組み立てたことも大きな一つの要因だと思っている。そのことを生かして、シンガポールを基点にタイ等の周辺地域に、ぜひ官民協働で開拓していきたいと考えており、それを進めるにあたって先ほどフランスの話もあったが、世界へ発信力があるフランスから「高知ユズ」を世界に発信していきたい。フランスで開催された昨年の食品会でも非常に評価が高かったことから、今年は見本市で、もう少し広い飲食、流通を合わせたアピールをしたい。その中で各地域において、ぜひとも官民協働による販路拡大に取り組みたい。

(F委員)

- ・ ご存じのように工業会は、それぞれ独自に生き抜いてきた自負を持つメンバーが集まっている。その中から自企業と他企業の管理部門同士で、いろいろ問題点等を相談したいという声が出た。まずは、昼間研修会を行い晩は懇親を深めることからスタートした。同じ製造業と言いながら、つくっているものや生産形態はそれぞれ違うものの、管理部門の仕事は一緒に、抱える問題点も一緒ということもあり、何回かそういう研修を行った。その話を聞いて、さらに他の企業から参加させてほしいという話もあり、今現在4社となった。この4社は同じ製造業ではあるが、つくるものは全部違う。共通点はいずれも上場会社であり、いずれも県外、国外から外貨を稼ぎ県内へ還元する業態である。その4社が最近盛んに定期的に会合を持っている。
- ・ 尾崎知事を筆頭に産業振興計画を本気で進めていただいていることが分かったので、第2期計画は、逆に民間がそれに本気で応える番という表明をメンバーにしている。本気で取り組むためには、みんながバラバラでは事がならないので、いい事例ができた。さらに、各社の監査役同士が連携を取り始めている。社長同士の連携はまだだが、私は逆によいことだと考えている。高知の工業会の製造業のトップ企業が結びつきを始めた。恐らく日本でも珍しいのではないかと。上場会社の管理部門が共同でいろんな動きを始めたことを実は皆さんに今日初めて披露する。
- ・ それに関連して、新たな商品開発をする時には学・官の協力が必要。特に、工業技術センター、高知大学、高知高専がしっかり、いろんな形で連携も取れ始めており、良い進み方をするのではないかと思う。中小企業のメンバーのためには、産業振興センターが商談会等いろんな機会をつくってくれている。いわゆる世間でいう産官学の連携がやっと機能し始めたなという感じを持っている。

(2) 第2期計画の取り組み状況等について

②平成24年度上半期の進捗状況、今年度の追加・削除等【地域アクションプラン】

《【資料3】を各地域産業振興監から説明》

※意見交換概要

(A委員)

- ・ 第2期計画の大きな柱に、産業人材の育成・確保があり、土佐まるごとビジネスアカデミー（土佐MBA）も始まっているが、そういう取り組みが地域アクションプランの担い手の育成にしっかり繋がっていくことが大事だと思う。そういう意味では、既に始まっている土佐MBAの参加者の中に、地域アクションプランの担い手、あるいはこれにつながる若い人材が参加されているのか状況をお聞かせいただきたい。

(中澤産業振興推進部長)

- ・ 土佐MBAは前期がおおむね終了した段階で、延べ1,000人程度受講いただいている。受講者のうち、地域アクションプランに取り組む方の人数は正確に把握できていないが、地域アクションプランや1次産業、本年度から募集を始めた「土佐の産業おこし参画プラン」にエントリーいただいている方も含めると、相当数が土佐MBAに参加いただいている。基礎から実践まで受講いただく土佐MBAの中でも特に商人塾はセミナー形式で1クラス20名程度、ほぼマンツーマンに近い形で指導しており、商人塾の受講生は担い手の方々がほとんどという状況である。

(受田委員長)

- ・ 私どもが実施している土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業（土佐FBC）も、今年度で5年目に入り、県の土佐MBAの一環として先行的に実施し、各地域のアクションプランの担い手の方も当然、重なっている。4年間で既に経済波及効果も3億円分は積み上げており、人材の育成が非常に重要で、これによって大きな成果が見込めることも先行してわかっている。従って、必ずや土佐MBAも、さらにこれを重層的に補足し、全面展開していく大きな武器になると感じている。

(E委員)

- ・ 57ページに三原村農業公社の記事が載っているが、私も設立当初から関わりを持っている。企業と三原村の農家がタイアップして公社をつくり、民間レベルで農業法人を立上げトマトを作り、これにプラスしてハネでジュース等を作り、8割は京阪神から外貨を稼いでいる。
施設は10年の経過とともに老朽化しており、少しでも故障するとトマトが腐って食べられなくなる。事業が継続できるよう、県とタイアップして支援していくことも重要と思う。
- ・ また、幡多などの遠隔地は、往路でたくさんの荷を積んで輸送したトラックの復路を使えばコストが下がる。郵便局とタイアップして、コスト削減を図る方法もある。県など情報を持つところが受発注を絡めてコーディネートすれば、県下全域でコストダウンができるので、今後の物流にぜひ生かしていただきたい。
- ・ 畜産の関係も、もう少し力を入れてもらいたい。赤牛の話が出たが、はちきん地鶏や龍馬が食べたシャモなども含めて畜産にもう少し力を入れてもらいたい。

(中澤産業振興推進部長)

- ・ 三原村農業公社に関しては、情報をいただき、地域本部で公社から話を伺っているところ。支援といっても事業主体の意向もあり、地元と一緒にこれから方策を考えていきたい。
- ・ 物流については、第1期計画の総括でも課題にあげ、第2期計画の上半期の取り組みにおいても、民間事業者の皆様や、私どもを含めて共通認識している。幸い少しまとまろうとする動きが事業者の間で出てきており、今、事業者団体の間でまとめるアクションもある。県の立場では、まだテスト段階だが、事業者、行き先、ルートを広くお知らせし、集約するお手伝いができないかと思っている。

(杉本農業振興部長)

- ・ 畜産関係について、高知は黒牛や赤牛、はちきん地鶏といった特色ある畜産がある。特に、牛については高齢化でなかなか跡継ぎがないことが今問題になっている。そして、畜舎も老朽化しており嶺北地域では、れいほく未来が主体となって大きな育牛施設をつくっているところ。
また、はちきん地鶏については、むらびと本舗で取り組んでいる。当然ながら技術的なバックアップもしていくし、まだオープンにできないが販路についても色々、具体的な動きも出ている。販路についても県が出ていき色々なPRに努めた結果、赤牛やはちきん地鶏の知名度が相当上がったと思っている。あと、とにかく頭数と羽数を増やすことが今一番、喫緊の課題であり、全力を挙げてやっていく。

(G委員)

- ・ 今年、2回目を迎える土佐の豊穰祭は、JAグループに大変なお力添えをいただき開催している。明日

の幡多フェスタを皮切りに、これから1年半ぐらい各知で開催する。本当の意味で高知の収穫祭として、高知の産品を県外からの誘客に使いたいと興した祭りなので、地域産業振興監の皆様にはさらにご注目いただき、地域全体のまとまりという意味でも、また人材育成という意味でもさらにお力添えをいただきたい。

(H委員)

- 各地域にもものすごく強い人材が育っており、首都圏等にも個別に発信はかなりされてきているようである。第1期の取り組みで色々な基礎づくりが進んでおり、これから第2期として、例えば、奇跡の清流等ネーミングがいろいろ出てきているので、ぜひ地域を語るとき、あるいは産業のフェアで売っていくときに、名前の上に何かサブキャッチ的なものがあると地域外にも伝わりやすいと思う。オール高知として自然が美しいことは大分伝わっていると思うが、首都圏では海のイメージが強く、中山間地のイメージがまだ十分伝わっていない。それぞれの地域にサブキャッチ的なものをそろそろ作って、地域ブランドとして、オール高知そしてエリアを、これを機に打ち出されるといいのではと非常に強く感じている。
- 4月にオープンした満天の星は、産直も今までの高知県内のものとは少し違い、表参道のカフェテリアのような雰囲気だった。かなり若い方が働いており、お客様も若く、開店前から待っている方が結構いた。印象的だったのは、車に戻ろうとした時、忙しい中、店長さんが追いかけてきて「ありがとうございました」と声を掛けていただいた。また、実は4月にオープンしたばかりといった話をしてくれた。こういう、いわゆるアナウンスメントする方がものすごくパワフルなので感激した。
- これからは6次産業化をさらに一步すすめて、我々は7次産業化という言葉を使っているが、ものを取り巻く環境、ずばり人をセットで売っていく段階に入ってきていると思う。そういう意味でかなり筋力がついている人が多いので、各エリアを売っていくとき、顔の見える農業だけでなく、顔の見える林業、顔の見える産業、顔の見えるエリアということで、もっと強く打ち出していける機運があると思った。
- こちらの皆さんは「うちの地域はまだまだ有名ではない」というが、首都圏の人はネットを使いピンポイントで情報を得ている。その際、地域全体を説明する文章が意外とない。地域の名前はあるが、例えば幡多地域であれば歴史があり、自然があり食があるという関連の説明が意外と拾えない。ばらばらのものを探して集めて編集しないといけないので、ぜひ何かものを売っていくとき、キーワードとキャッチフレーズとその説明をつくっていただけるといいと思う。

(尾崎知事)

- 今、7つのエリアでリョーマの休日キャンペーンとしてエリアキャンペーンを行っている。地域ごとのサブキャッチをよく考えてみたいと思う。エリアごとになると、キャッチの取り合いになるかもしれないが、うまく組み合わせればいいと思うし、シーンによって少し変えるのもよいかも。良いアドバイスをいただいたと思う。

(3) 高知県経済等の動向及び第2期計画で今後挑戦する新たなテーマについて

《【資料4、5】を産業振興推進部長から説明》

※意見交換概要

(H委員)

- ・ これまでは高齢者、リタイアメントの方々は、静かに余生を送るというイメージがあった。これからは世の中に出ていく団塊の世代は、ずっと競争に生き抜いてきた非常にアクティブな方が多い。他の地域でも中山間地対策には本当に色々な問題が重なっているのでそう簡単に解決しないが、1つはそこに働く場所をつくるのが、鍵だと考えている。
- ・ 別の事業でシミュレーションしているが、団塊の世代の方は3,000万~5,000万円位の預貯金があり、何かあれば投資したいという意欲を持っている。大体試算すると1人500万ぐらい何かの事業に投資したいと考えており、大変、高いスキルを持つ方もたくさんいる。例えば、高知県の食材があるということで銀座のアンテナショップ等にお連れすると、営業をやりたい人や、林業分野の方はもう少しデンマークのようなクラフトにしたらという、すごくいろんなアイデアをいただく。
- ・ 中高年、高齢者の方に高知で働きませんか、あなたは高知でもう一度自分の能力を生かしませんかと、外の財産の投資先として高知が積極的に名乗りを上げれば、皮算用だが1人が500万円ずつ使って1,000人来ていただければ、民間のお金で投資する人は真剣勝負だし、小さくても民間のお金が動く。そういうところに支援する何かAプランプラスおまけ的なご提案をしたい。
- ・ 山形に少しさびれたホテルがあり、オーナーに何が欲しいかと聞くと「マネージャーが欲しい」ということであった。某有名ホテルのマネージャーに年間100万で来てもらい、すごく活性化することができた。具体的なオーダーがあれば、私の方で探せるので、各エリアで具体的にこういう人が必要、こういう仕事があるといえれば人は集まると思う。漠然と能力のある人でいい人に来てくださいでは誰も来ない。できれば地域で困っている、あるいは中小企業で困っている、だから、こういう人が欲しいという具体的な募集をする方がよい。

(尾崎知事)

- ・ ありがとうございます。そういう形でやりたいと思っており、ぜひ検討させていただきたい。実は我々も少し悩んだところであり、資料5の2ページの移住促進策の抜本強化のボックスにある「動機づけによる促進策の強化」に、「能力の発揮」と書いているが、何々の仕事をするために移住してくれませんか、何らかの役割を付けて募集することができないかと思っている。実は、移住促進策を平成17、18年ぐらいに実施したとき、高知県出身の方を狙いうちにしましたがあまりうまくいかなかった。そのときの反省も踏まえて、もう一段強い誘因を持たせる必要がある。当時は、まだ団塊の世代がリタイアしていなかったこともあつただろうが、環境的には追い風だと思う。家付き土地付きなど色々あるだろうが、そこを練り込んでいただきたい。
- ・ 雇用を人造的・政策的につくることができる面もある。特に、高知ふるさと応援隊、これは集落活動センターの運営や、コーディネートをする仕事で特に若い人を想定しているが、3年間は一定半分ぐらい税金を使わせていただき、その間に自立を考えていただく仕組み。このように一定仕事もつくることができると思うので、今言われたことも含めて色々なパターンを考えていきたい。

(4) さらなる飛躍へのポイントの検討状況について

《【資料6】を産業振興推進部長から説明》

※説明のみ

6 閉会

(尾崎知事)

それでは皆様方、今日は大変ご多忙の中、ご時間を賜り本当にありがとうございました。今日いろいろご意見を賜りましたことも踏まえまして、我々さらに今後に向けまして検討を重ね、次回1月には、予算編成のプロセスを経て、より綿密な形で、次に向けたプランをご提示させていただきたいと思います。何よりもこの平成24年度に実施しているものについて、しっかりと実行して積み上げていきまして、具体的な経済効果をもたらすべく努力を重ねていきたいと思います。委員から本当に嬉しいお話をいただいたところございまして、産学官連携の実が少しずつ少しずつできていく、官民協働の取り組みが進んでいく、そういう中で少しずつ県勢の浮揚を目指し頑張っていきたいと考えております。また、引き続きご指導、ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日は3時間の会議でございましたが、お手元の資料にたくさんの情報が載っております。こちらをまたご覧いただきまして、本日の委員会だけではなく、随時ご指摘いただければ幸いです。また、どうぞよろしくお願いいたします。

【以上】